

絵本と信仰



牧師・青田 勇

これは「サンタクロースっているんでしょうか」という有名な本です。今から100年以上前の、1898年にアメリカの新聞「ニューヨーク・サン」に載った社説を訳したこの本が世界各地で出版されました。これを書いたのはフランシス・チャーチという記者です。当時の編集者はその記者について、「人間生活のあらゆる面において、深い洞察力と鋭い感受性を備えた人物であった」と評しています。そのような豊かな想像力を備えていた記者・チャーチは社説の冒頭でまずこう書きました。

「ニューヨーク・サンしんぶんしゃに、このたび、つぎのような手紙がとどきました。さっそく、社説でとりあげて、おへんじしたいとおもいます。この手紙のさしだし人が、こんなにたいせつなしつもんをするほど、わたしたちを信頼してくださったことを、記者一同、たいへんうれしくおもっております。」

幼い筆跡で新聞社に手紙を書いたのはバージニア・オハンロンというニューヨークに住む8歳の女の子です。バージニアはこのような言葉で質問しました。

「きしゃさま あたしは、八つです。『サンタクロースなんていないんだ。』っていつている子がいます。パパにきいてみたら、『サンしんぶんに、といあわせてごらん。しんぶんしゃで、サンタクロースがいるというなら、そりやもう、たしかにいるだろうよ。』と、いいました。ですから、おねがいです。おしえてください。サンタクロースって、ほんとうに、いるんでしょうか？」

バージニアの素直な質問に記者・チャーチが暖かい同情心で次ぎように答えます。

「バージニア、おこたえます。サンタクロースなんていないんだという、あなたのお友だちはまちがっています。きっと、その子の心には、いまはやりの、なんでもうたがってかかる、うたぐりやこんじょうというものが、しみこんでいるのでしょう。うたぐりは、目にみえるものしか信じません。うたぐりは、心せまい人たちです。心がせまいために、よくわからないことが、たくさんあるのです。それなのに、じぶんのわからないことは、みんなうそだときめているのです。けれども、人間の心というものは、おとなのばあいでも、子どものばあいでも、もともとたいそうちっぽけなものなんですよ。わたしのすんでいる、このかぎりなくひろい宇宙では、人間の知恵は、一匹の虫のように、そう、それこそ、ありのように、ちいさいのです。そのひろく、またふかい世界をおしはかるには、世の中のことすべてをりかいし、すべてをしることのできるような、大きな、ふかい知恵が必要なのです。」

このように、記者・チャーチは心に疑いをいだくのでなく、信じる心をもつことが大切であることをバージニアに伝えます。さらに、目に見えないことを信じることは、人間にとっての最も大事な愛と信頼がそこから生まれてくることを次のように語ります。

「そうです。バージニア。サンタクロースがいるというのは、けっしてうそではありません。この世の中に、愛や、人へのおもいやりや、まごころがあるのとおなじように、サンタクロースもたしかにいます。あなたにも、わかっているでしょう。……世界にみちあふれている愛やまごころこそ、あなたの毎日の生活を、うつくしく、しているものなのだということを。もしもサンタクロースがいなかったら、この世の中は、どんなにくらく、さびしいことでしょう。あなたのようなかわいらしい子どものいない世界が、かんがえられないのと同じように、サンタクロースのいない世界なんて、そうぞうもできません。サンタクロースがいなければ、人生のくるしみをやわらげてくれる、子どもらしい信頼も、詩も、ロマンスも、なくなってしまうでしょうし、わたしたち人間のあじわうよろこびは、ただ目に見えるもの、手でさわるもの、かんじるものだけになってしまうでしょう。また、子ども時代に世界にみちあふれている光も、きえてしまうことでしょう。」

ここで言われるようにサンタクロースは信じる人です。サンタクロースはサンタクロースです。お父さんでも、お母さんでもないのです。信じることによりサンタクロースがいることになるのです。これは神も、イエス・キリストも同じです。神は信じるお方です。信じる豊かな世界を持つこと、これがクリスマスです。

信じる心を持つことは、人への思いやりと、優しい心を持つことにつながります。ただ目の前の見えるもの、手で触れるもの、感じるものよりも、目に見えない神を信じる豊かな心を持つようになること、これが私たちにとってのクリスマスの神からのプレゼントです。

クリスマスで信じる世界を心にとりもどし、神がイエス・キリストを私たちに与えてくださったことにより示された神の愛により、日々の生活で愛に満ちた祝福されて送っていききたいものです。

JELC 東京池袋教会の皆様へ教会実習のご挨拶

日本ルーテル神学校 4年生 奈良部 恒平

頌主 お世話になっております。10月から東京池袋教会で実習をさせていただいている、東京教会出身の奈良部 恒平（ならぶ こうへい）です。ご挨拶として、これまでの個人的な経緯とクリスマス伝道について、簡単にお知らせいたしますので、お願いいたします。

私は母親がクリスチャンの家庭に生まれ、日曜日は当たり前のように、教会へ行っていました。当時、通っていた教会では15歳にならないと受洗資格がなかったため15歳のクリスマス礼拝で受洗しました。大学卒業は、就職氷河期といわれる時代でしたが、神様は祈りに応えて仕事を与えてくださいましたし、転職も経験しました。そのころ、ルーテル教会の牧師になっていた従兄弟（関野和寛牧師）が婚約すると知り、婚約式に出席するために、東京教会の礼拝へ出席しました。そのルーテル教会の礼拝式に心を打たれ、ルーテル教会への転入に導かれました。その後、結婚を機に、今住んでいる日野市に引っ越しました。子どもが与えられ、30代前半は、ある意味で、とても充実した日々でした。教会ではCSのスタッフとして奉仕し、将来的には一信徒として教会の役員をしながら、牧師や教会を支えて行かなければならないという責任を感じていました。そんな平穏な状態の時に、教会の牧師から「来年度の献身者が、一人も与えられていない」という話を聞きました。その時、使徒パウロが「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」（一コリ12：27）というように、私もキリストの身体の一部だったと気がつかされました。牧師になりたいという衝動にかられましたが、椎間板ヘルニアで緊急入院することになりました。この病気療養中、聖書を読み、祈り、色々と考える時間が与えられました。妻は神学校へいくことに賛成してくれました。病気の症状もほぼ治まり、全速力で走ったり、重い物を持ったりすることは出来ませんが、日常生活が不自由なくおくれるまでになりました。神学校を受験し、入学を許され、10年余りに及んだ社会人生活にピリオドを打ち、神学校での学びが始まり、今年で4年目になりました。

一昨年には長女も与えられ、4人家族になりました。2児の子育てをしながら神学校で学んでいるので、大変なことも多いのですが、卒業論文『ルターにおける終末論的な生』を書き上げることができました。そして、皆様とクリスマスに向けて、こうして信仰の歩みを共にできますことを、とても嬉しく思っております。天地万物を創造された神様が、私たちに本当の愛を具体的にあらわしてくださったことを、イエス・キリストの誕生をお祝いするクリスマスを通して、人々と心から分かち合うことができるように、神様の助けによって御言葉の働きに励んで行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

栄光在主

雪のクリスマス・イブの思い出

石黒 優子

その日も雪が沢山降って、諏訪湖が見下ろせる丘の上の教会は雪で囲まれていました。イブ礼拝が終って、いつも上諏訪教会がやっているクリスマスキャロルに参加しました。

塩原牧師を先頭に、夜で雪が凍った石の階段を皆で滑らないように、気を付けながら上諏訪駅に行きました。持参したローソクに火をともし、皆でクリスマスの讃美歌をたくさん歌いました。お菓子を入れたかごを持って行き、駅を歩きかう人にさし上げました。(ちょっと若草物語中のお話みたいだなと思った気がします)

その年は駅だけでしたが、以前には、もっと、あちらこちらで歌っていたそうです。教会に帰る時がまたまた大変でした。ツルツルする、かたい雪を踏みしめながら上がっていききました。塩原牧師は、お年寄りの女性を負ぶって、上がってらっしゃいました。皆さんに、「女性を負ぶって、先生よかったわね」といわれていたことも思い出します。とても楽しく時が過ぎ、皆が教会に戻ってきたときには、諏訪湖の上には、キラキラと星が輝いていました。イエスさまがいらっしゃったと、みんなで幸せな気持ちになったことを覚えています。

その上諏訪教会も古くなって、中腹に建っている為、危険な状態でありましたから、教会はなくなりました。いまでは下諏訪教会に移って、諏訪教会となりました。いつか青田牧師の説教で「教会は、なくなる時が来るかもしれないが、神様の御言葉は、永遠につづく、消えることはない。」と言われたことが、このことかもしれません。かつての上諏訪の兄弟姉妹を思い出して懐^{なつ}かしく、過ぎ去りし日のクリスマス・イブの思い出^{ひた}に浸ることができたことを感謝します。

池袋教会の兄弟姉妹が、素晴らしいクリスマスを迎えることができますように、神様の祝福が豊かにありますように、お祈りいたします。



クリスマスの思い出

北原 則子

会報が発行される頃は、年末商戦と共に、クリスマスを祝う喧騒が始まっているでしょう。自分が歳を重ねて、社会の騒ぎを、大目に見られなくなりました。しかし、嬉しくて、メリークリスマスを連発しながら、喜び過ごしたクリスマスシーズンもありました。

たくさんの方のクリスマスの思い出の一つに、予期しなかった友とのクリスマスがあります。互いに職場で知り合い、文芸部に属していました。好みが合う作家、文体など話し合いの場でも、意識していました。クリスチャンと証した年のクリスマスの翌週の事でした、互いに属している教会は異なっていましたが、クリスマスの聖餐にも与かっていました。

主イエス様のお姿が一番尊いと思うこと、感謝することは、と語り合いました。先に、友人（彼女）が「マタイの福音書 26章34節以降：ペトロがイエスを知らないと言うだろう。（イエスの言葉）（この箇所はマルコ、ルカ、ヨハネの福音書にも記されています。）彼女は聖書のイエスさまのお言葉と、ペトロは弟子中の弟子、主を畏れ、敬愛しながらも、犯してしまう人間的行動、また、主の言葉に思いめぐらした時に、慟哭するシーンが自分に重なり、主の愛に包まれながらも、犯してしまう自分の日々、そして主の許しを自覚する。」と語り。

私は「マタイの福音書 26章36節以降：ゲッセマネで祈る。（この箇所はマルコ、ルカの福音書にも記されています。）主が祈られるお姿、お言葉に、弟子たちは眠ってしまう弱さ。主は、神の御子でありながら、苦しまれた祈りのお姿に感謝のみ。神の御心にお任せ為さる、主イエスの神に従順に従われたシーン（十字架も同じ）。」と語りました。

クリスマスの幼子として礼拝した後に、交わした友人との会話も、50年前のことです。人生、社会生活が、山あり谷あり苦楽何でもありで、ともなる主と過ごしてきました。

最後になりましたが、池袋教会にて、はじめてのクリスマスは1991年でした。NRK大宮の都合で、教会員に受け入れて頂いたのは、今は天に召された夫、田中豊より3か月遅れのクリスマスでした。ミスの多い私ですが、どうぞ、よろしく交わりを、お願い申し上げます。

牧師館のこれまで、これから

代議員 齋藤 政人

今年7月に牧師館が竣工し、バザーの準備等に使用が始まりました。新しい牧師先生に住んでいただくのは2018年春以降となります。

旧牧師館はフィンランドのSLEY（フィンランド福音ルーテル協会）から譲り受け、90年間にわたって使用してきた歴史的な建物でした。残念ながら、耐震設計や生活の利便性等から建て替えざるを得ず、種々議論を経て新しい牧師館の建築となりました。この間、牧師館献金を含め教会の皆さまに支えていただいた結果、大きな賜物として牧師館が完成しました。改めて感謝します。

この牧師館建築のために本教会から1200万円の借入れを行いました。これから毎年、返済が始まります。この返済に充当することも視野に、駐車場を今までの5台から11台に拡大し、賃貸収入が増えるよう努力しています。牧師館竣工に伴い、現段階では会堂や牧師館建築といった大型の資金需要はなくなりましたが、借入金の返済や会堂・牧師館の長期維持補修費用等、今後も必要な費用が見込まれます。駐車場の賃貸収入に頼るだけでなく、私たち教会員全員で少しずつ、引き続き支えていくことができるようにご協力をお願いします。

会堂や牧師館の有効な活用方法についてもいいアイデアがありましたら教えてください。全員で支えていく教会となりますよう、引き続きご協力をお願いします。



婦人会活動報告

山口 悠子

11月例会（11月27日礼拝後）

9月、10月はバザー準備のため例会はお休みで、久しぶりの会となりました。

出席者：壮年4名（礼拝のみ）、婦人13名

奨励：青田 勇牧師 ローマの信徒への手紙3章21～31節「信仰の義」

「義」とは良いことと悪いことを分けるであり、私たちは神の義、すなわち神が正しいお方であることを認めることが信仰の前提となる。神によるイエス・キリストの十字架の業への絶対的信頼がキリストと一つになる信仰である。

（報告）

* 第3火曜日午後に行われている婦人聖書会について、高齢化、自身や家族の健康上の問題等により出席者が少なくなっていることから今後の在り方について話し合った結果、青田先生のご都合も考慮し、来年1月から原則として第3火曜日、11時～12時に開催することとしました。

* 12月4日（日）礼拝後婦人会主催の小バザーを開催します。

バザー後の品物の処理方法として、品物を牧師館に移動させて、期間を区切って第3日曜日（婦人会開催日）に会員の方に自由に見ていただけるようにいたします。

* 12月13日（火）11時より婦人会クリスマス祝会をいたします。（会費は1200円）青田先生の奨励、昼食の後、恒例のビンゴを楽しみます。皆さま、どうぞ参加くださいませ。

* 連盟関係

- ・ ACWC一日研修会 11月11日（金）於富士見町教会 谷口姉出席
- ・ NCC世界祈祷日 2017年3月3日（金）於富士見町教会
「フィリピンの女性と子供たちを覚えて」



教会の主な集会・行事予定

- ◆ 12月 4日(日)礼拝後、 ミニバザー
- ◆ 12月11日(日)礼拝後、 定例役員会、手話の会
- ◆ 12月13日(火)午後2時 婦人のクリスマス会
- ◆ 12月14日(水)午後2時 聖書に学ぶ 第二テモテ4章16節以下
- ◆ 12月18日(日)礼拝後、 教会のクリスマス祝会
- ◆ 12月24日(土)午後7時 クリスマス・イブ礼拝(ピアノ演奏)
- ◆ 1月 1日(日)午前10時半 主日礼拝・新年礼拝
- ◆ 1月 8日(日)礼拝後、 定例役員会、手話の会
- ◆ 1月11日(水)午後2時 聖書に学ぶ ヨハネ福音書 1章1節以下
- ◆ 1月15日(日)礼拝後、 婦人会
- ◆ 1月17日(火)午後2時 婦人の聖書会 ルカ福音書 22章24節以下
- ◆ 1月25日(水)午後7時 聖書を読む会
- ◆ 2月 5日(日)礼拝後、 教会総会
- ◆ 2月 8日(水)午後2時 聖書に学ぶ ヨハネ福音書 1章6節以下
- ◆ 2月12日(日)礼拝後、 定例役員会、手話の会
- ◆ 2月19日(日)礼拝後、 婦人会
- ◆ 2月28日(火)午後2時 婦人の聖書会 ルカ福音書 22章31節以下